

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成27年12月24日 (2015.12.24)

【公表番号】特表2015-505540(P2015-505540A)

【公表日】平成27年2月23日 (2015.2.23)

【年通号数】公開・登録公報2015-012

【出願番号】特願2014-553530(P2014-553530)

【国際特許分類】

A 6 1 K 36/18 (2006.01)

A 6 1 P 1/04 (2006.01)

A 6 1 P 43/00 (2006.01)

A 6 1 K 38/00 (2006.01)

A 6 1 K 31/4164 (2006.01)

A 6 1 K 31/7048 (2006.01)

A 6 1 K 47/34 (2006.01)

A 6 1 K 9/20 (2006.01)

A 6 1 K 9/48 (2006.01)

A 6 1 K 9/08 (2006.01)

A 6 1 K 9/02 (2006.01)

A 6 1 P 31/04 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 35/78 C

A 6 1 P 1/04

A 6 1 P 43/00 1 2 1

A 6 1 K 37/02

A 6 1 K 31/4164

A 6 1 K 31/7048

A 6 1 K 47/34

A 6 1 K 9/20

A 6 1 K 9/48

A 6 1 K 9/08

A 6 1 K 9/02

A 6 1 P 31/04

【手続補正書】

【提出日】平成27年11月4日 (2015.11.4)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

ビャクダン油の治療有効量を含む、対象のクロストリジウム感染症を治療または予防するための組成物であって、前記対象がクロストリジウム感染症に罹患している、またはクロストリジウム感染症を発症するリスクがある、組成物。

【請求項 2】

前記感染症が対象の消化管で生じる、請求項 1 に記載の組成物。

【請求項 3】

クロストリジウム感染症がC. パーフリンジェンス感染症、C. ディフィシル感染症、C. テタニ感染症またはC. ボツリナム感染症である、請求項1または2に記載の組成物。

【請求項4】

さらに、クロストリジウム感染症に罹患したまたはクロストリジウム感染症を発症するリスクがある対象が選択されることを特徴とする、請求項1～3に記載の組成物。

【請求項5】

ビャクダン油が、サンタラム・アルバムもしくはサンタラム・スピカタムまたはその組み合わせに由来する、請求項1～4のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項6】

ビャクダン油の治療有効量が、対象のクロストリジウム感染症を選択的に抑制する、請求項1～5のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項7】

ビャクダン油の治療有効量を含む、対象のクロストリジウム感染症の再発を低減するための組成物であって、前記対象は、クロストリジウム感染症を再発するリスクがある、組成物。

【請求項8】

前記感染症が対象の消化管で生じる、請求項7に記載の組成物。

【請求項9】

クロストリジウム感染症がC. ディフィシル感染症である、請求項7または8に記載の組成物。

【請求項10】

前記対象がバンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンで治療を受けていた、請求項7～9のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項11】

ビャクダン油の治療有効量を含む組成物が、バンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンによる治療と同時に、または治療の後に投与されることを特徴とする、請求項10に記載の組成物。

【請求項12】

ビャクダン油の治療有効量を含む組成物が、バンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンによる治療の後に投与されることを特徴とする、請求項11に記載の組成物。

【請求項13】

ビャクダン油がサンタラム・アルバムもしくはサンタラム・スピカタムまたはその組み合わせに由来する、請求項1～12のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項14】

前記組成物が約0.03%～約100%のビャクダン油(w/w)を含む、請求項1～13のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項15】

前記組成物が約0.03%～約1%のビャクダン油(w/w)を含む、請求項14に記載の組成物。

【請求項16】

前記組成物が約0.03%～約0.5%のビャクダン油(w/w)を含む、請求項15に記載の組成物。

【請求項17】

ビャクダン油の治療有効量を含む前記組成物が、さらに医薬担体を含む、請求項1～16のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項18】

前記医薬担体が高分子量ポリエチレングリコールである、請求項17に記載の組成物。

【請求項19】

前記組成物が錠剤、カプセル、液体、または坐剤として投与されることを特徴とする、請求項 1～18 のうちいずれかに記載の組成物。

【請求項 20】

ビャクダン油の治療有効量を含む、対象のクロストリジウム保菌状態を低減するための組成物であって、前記対象はクロストリジウムの保菌者または保菌者になるリスクがある、組成物。

【請求項 21】

クロストリジウム芽胞個体群にビャクダン油の有効量を接触させることを特徴とする、クロストリジウム芽胞の感染力を低減させる組成物。

【請求項 22】

前記個体群は *in vitro* 個体群である、請求項 21 に記載の組成物。

【請求項 23】

前記個体群は *in vivo* 個体群である、請求項 21 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0003

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0003】

さらに、対象でのクロストリジウム感染症の再発を低減させる方法を提供する。方法は、対象にビャクダン油の治療有効量を含む組成物を投与することを含み、対象はクロストリジウム感染症を再発するリスクがある。

本発明は、例えば、以下の項目も提供する。

(項目 1)

対象にビャクダン油の治療有効量を含む組成物を投与することを含む、前記対象のクロストリジウム感染症を治療または予防する方法であって、前記対象がクロストリジウム感染症に罹患している、またはクロストリジウム感染症を発症するリスクがある、方法。

(項目 2)

前記感染症が対象の消化管で生じる、項目 1 に記載の方法。

(項目 3)

クロストリジウム感染症が C. パーフリンジェンス感染症、C. ディフィシル感染症、C. テタニ感染症または C. ボツリナム感染症である、項目 1 または 2 に記載の方法。

(項目 4)

さらに、クロストリジウム感染症に罹患したまたはクロストリジウム感染症を発症するリスクがある対象を選択することを含む、項目 1～3 に記載の方法。

(項目 5)

ビャクダン油が、サンタラム・アルBUMもしくはサンタラム・スピカタムまたはその組み合わせに由来する、項目 1～4 のうちいずれかに記載の方法。

(項目 6)

ビャクダン油の治療有効量が、対象のクロストリジウム感染症を選択的に抑制する、項目 1～5 のうちいずれかに記載の方法。

(項目 7)

対象にビャクダン油の治療有効量を含む組成物を投与することを含む、対象のクロストリジウム感染症の再発を低減する方法であって、前記対象は、クロストリジウム感染症を再発するリスクがある、方法。

(項目 8)

前記感染症が対象の消化管で生じる、項目 7 に記載の方法。

(項目 9)

クロストリジウム感染症がC. ディフィシル感染症である、項目7または8に記載の方法。

(項目10)

前記対象がバンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンで治療を受けていた、項目7～9のうちいずれかに記載の方法。

(項目11)

ビャクダン油の治療有効量を含む組成物が、バンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンによる治療と同時に、または治療の後に投与される、項目10に記載の方法。

(項目12)

ビャクダン油の治療有効量を含む組成物が、バンコマイシン、メトロニダゾールまたはフィダキソマイシンによる治療の後に投与される、項目11に記載の方法。

(項目13)

ビャクダン油がサンタラム・アルBUMもしくはサンタラム・スピカタムまたはその組み合わせに由来する、項目1～12のうちいずれかに記載の方法。

(項目14)

前記組成物が約0.03%～約100%のビャクダン油(w/w)を含む、項目1～13のうちいずれかに記載の方法。

(項目15)

前記組成物が約0.03%～約1%のビャクダン油(w/w)を含む、項目14に記載の方法。

(項目16)

前記組成物が約0.03%～約0.5%のビャクダン油(w/w)を含む、項目15に記載の方法。

(項目17)

ビャクダン油の治療有効量を含む前記組成物が、さらに医薬担体を含む、項目1～16のうちいずれかに記載の方法。

(項目18)

前記医薬担体が高分子量ポリエチレングリコールである、項目17に記載の方法。

(項目19)

前記組成物が錠剤、カプセル、液体、または坐剤として投与される、項目1～18のうちいずれかに記載の方法。

(項目20)

対象にビャクダン油の治療有効量を含む組成物を投与することを含む、対象のクロストリジウム保菌状態を低減する方法であって、前記対象はクロストリジウムの保菌者または保菌者になるリスクがある、方法。

(項目21)

クロストリジウム芽胞個体群にビャクダン油の有効量を接触させることを含む、クロストリジウム芽胞の感染力を低減させる方法。

(項目22)

前記個体群は*in vitro*個体群である、項目21に記載の方法。

(項目23)

前記個体群は*in vivo*個体群である、項目21に記載の方法。